

に購読を休んだのがきっかけだったと思いますが、研究所でこの雑誌を定期購読していたこともあって、自ら購入することはなくなってしまいました。ちょっと墮落したなと感じながらも、毎月図書室でどんな記事が掲載されているのかを見るのを楽しみにしていました。

しばらくすると、図書室で同じ分野のレビュー雑誌2誌を目にするようになりました。これら2誌はその時々ホットな話題をうまく取り上げており、また記事も読みやすいことから、今でもしっかり楽しませてもらっていますが、相前後して同じようなトピックを紹介することになりがちでした。それに比べて、『蛋・核・酵』誌はほぼ変わらない体裁と独自の内容で刊行されていると感じていました。歴史ある故に、変わらぬ編集方針があったということだと思いますが、何とか休刊にならずに済む方策がなかったのかとやはり残念です。

動物衛生研究所は平成23年4月から本所で3つ、支所等で3つの計6つの研究領域を設けて、研究をスタートさせました。動衛研の本所の細菌・寄生虫関係の研究員はこれまでいくつかの研究部や研究チームに分かれて研究活動を行ってきましたが、今回初めてひとつの組織単位、すなわち細菌・寄生虫研究領域にまとまることになりました。研究領域の19名の仲間がそれぞれの力をさらに磨き、その力を存分に発揮できるように研究環境の整備に努めたいと思っています。そして細菌・寄生虫研究分野においてどのような成果を発信していく必要があるのか、そのためにはどのような研究活動を強化していくのかをしっかりと考えながら、私達の研究成果の発信を皆さんにいつも楽しみにしてもらえようように研究を進めていきたいと思っています。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

TOPICS

新技術説明会に動物衛生研究所が発表

科学技術振興機構（JST）が主催する新技術説明会が平成23年6月7日（火）に東京市ヶ谷のJSTホールで開催され、当所を中心とした農研機構の研究成果7題が発表されました。当説明会は大学、公的研究機関の研究成果（特許公開中のもの）の実用化を促進するため、JSTが数万人におよぶメール会員やホームページを通じて民間企業等に参加を募り、発表後、その場で特許許諾に向けた個別相談を行うというもの。発表会は大学等の研究成果を中心に毎月数回開催されています。今回、初めての試みとして研究独法の研究成果をと

いうことで、当所に発表依頼があり、機構内の他研究所とともに農研機構新技術説明会～鳥インフルエンザ・BSE・食品機能性等～として取り組んだものです。当所からは「高精度なPCR法による鳥インフルエンザウイルスの迅速な亜型判定」、「農場で利用可能な牛の脳幹機能検査技術」および「組換え型リゾチームの製造法」の3題が発表されました。当所・機構としても初めての試みであり、参加があるか危惧しましたが、会場がほぼ満員となる80人

以上の企業の方々の参加がありました。当所への個別相談も7件あり、特許許諾や共同研究の相談もあるなど極めて有意義な発表会となりました。

（病態研究領域長 八木行雄）

